

令和7年度 都島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 都島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年 4月17日	学校	108	54	57	6.2	9.7	学校	504
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年 9月2日	学校	109	68.2	55.0	63.9	53.1	60.6	5.5	5.3	8.6	6.5	5.1
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年 1月14日	学校	84	60.0	34.2	51.1	38.2	45.8	10.8	11.6	14.5	8.1	10.1
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年 1月14日	学校	85	65.7	67.5	65.7	66.0	69.4	7.1	2.1	5.6	3.4	3.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年 10月16日	学校	101	124.0	114.3	165.1	101.9
	大阪市	—	117.0	110.0	146.0	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	31.91	26.81	45.49	55.63	69.14		7.93	197.81	19.51	43.29
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	26.82	22.11	48.39	49.32	44.07		9.40	162.89	10.93	48.62
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 都島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国学力・学習状況調査】

<成果と課題>

《国語》 全国と比較して、「書くこと」の領域において0.7ポイント上回ったが、「読むこと」の領域においては、3.1ポイント下回っている。「書くこと」については、生徒質問紙結果にあるとおり、文章を整える力に対して、肯定的に回答している生徒の割合が大阪市を上回り、全国並みであることが考えられる。

《数学》 全国と比較して、全ての領域において正答率が上回っている。その背景には、生徒質問紙結果のとおり、あきらめずに様々な方法で問題を解く姿が見られる。

《理科》 全国と比較して、IRTバンドの割合すべてが全国並みで、平均IRTすこあについては、大阪市を上回っている。生徒質問紙結果にあるとおり、実験に対する予想を立てて計画を立てる活動を行っており、自ら問題に対して考える場面が多いことが伺える。

【中学生チャレンジテスト(3年)】

<成果>

いずれの教科の平均値においても、大阪府、大阪市と比較して、およそ4ポイント以上上回っている。無回答率においては、いずれの教科も10ポイントを下回っており、あきらめずに最後まで問題に取り組む姿がみられる。この点においても、大阪府や大阪市との差となっている。

<課題>

評価の観点別平均点において、いずれの教科も「思考・判断・表現」は大阪府・大阪市ともに上回っているものの、他の観点と比較して、差は大きくない。現在、朝の学活時等を活用し、新聞記事を読んで、どのように考えたかをまとめたり、各教科にて授業で考える時間を設けたりして、創育工夫を図っていく。

<今後に向けて>

全国学力・学習状況調査より、先生に良いところを認められていると感じている生徒が全国よりも約3ポイント高い一方で、自分自身に良いところがあると感じている生徒は全国と比べて約3ポイント低い。今後、高校進学に向けて、進路学習を通して、自己肯定感を高める取組を進めていく。また、ICT機器の活用においては、情報収集についてはできていると感じている生徒が多い一方で、図やグラフ等のICTを活用してまとめる力については、全国、大阪市と比べても低いと、学習者用端末をはじめとしたICT機器の授業でのさらなる活用を推進していく。

全国学力・学習状況調査と同様、引き続き、ICT機器を活用して、生徒の課題に応じた授業を実施していく。

【中学生チャレンジテスト(1・2)・中学生チャレンジテストplus】

<成果>

1年生は、いずれの教科も大阪府・大阪市平均を上回っている。2年生では、いずれの教科も大阪府平均を下回っているものの、国語・理科・英語においては、「思考・判断・表現」の領域では、他の領域と比べて、高い傾向がある。そのことから、問題に対して論理的に考え回答を見出す姿がみられたと考えられる。

<課題>

1年生においては、いずれの教科も「知識及び技能」は大阪府・大阪市ともに上回っているものの、他の観点と比較して、差は大きくない。今後、デジタルドリルを活用した反復練習を行い、さらなる定着を図る。2年生においては、学力向上に向けて、朝の短時間学習やコグトレ(認知機能(記憶、注意、言語理解、知覚、推論・判断など)を鍛える包括的支援プログラム)を実施し、基礎学力の定着とその基礎となる学習の土台作りを引き続き行っていく。

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】

<成果と課題>

男女ともに、20mシャトルラン、ハンドボール投げを除く項目において、大阪市、全国を上回っている。また、体力合計点は男女ともに1点以上、大阪市、全国を上回っており、運動能力の高さがうかがえる。一方、20mシャトルラン、ハンドボール投げについては、全国、大阪市ともに下回っており、持久力と瞬発力に課題がある。

また、生徒質問紙では、「運動やスポーツをすることは好きですか。」について肯定的に回答している割合が男女合わせて80.8%(大阪市:83.0%)で、大阪市並である。

1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は、男子は15.0%(大阪市:12.2%)、女子は17.4%(大阪市:27.6%)である。一方、420分以上の生徒の割合は、男子は77.5%(大阪市:75.8%)、女子は39.1%(大阪市:53.8%)で、男子は二極化傾向、女子は60~419分の層が多い傾向がある。

<今後に向けて>

毎時間、補強運動を行い、体力向上を図っているが、引き続き行っていく。さらに、3学期に持久走を実施し、生徒の持久力の向上を図り、体力向上につなげていく。

また、保健体育や学校行事等を通して、運動の楽しさや面白さを知り、「運動やスポーツをすることは好き」な生徒を広げていく。1週間の総運動時間については、部活動の楽しさやスポーツにかかる地域活動等を生徒に周知し、参加を広げていくことで、1週間の総運動時間を増加していく。

【大阪市英語力調査】

<成果>

いずれの領域においても、大阪市平均を超えており、英語力が高いことがうかがえる。ライティングでは自分の考えや意見を理由を含めて表現することができており、また、段落に分けて論理的に書くことができていく。

<課題>

スピーキングでは苦手意識のある生徒でも積極的に取り組んでいるものの、スコアが大阪市と同様最も低く、習得に差がある。

<今後に向けて>

生徒の英語での発話量を増やすために、授業で教員の英語使用量を増やすとともに生徒が主体的に言語活動に取り組める機会を増やしていく。また、小テスト等を実施して、生徒の4技能の学力状況を把握し、授業の改善に役立てていく。

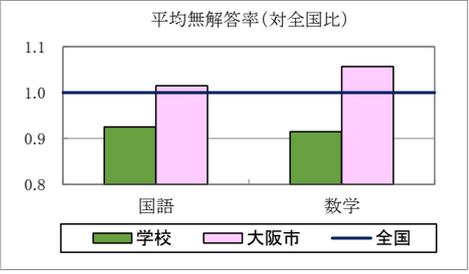
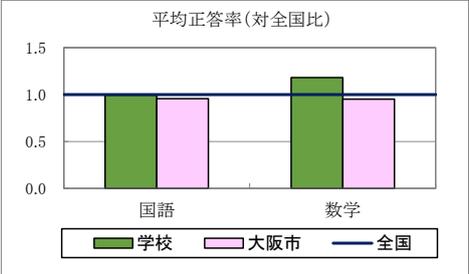
令和7年度 都島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	54	57
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.2	9.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

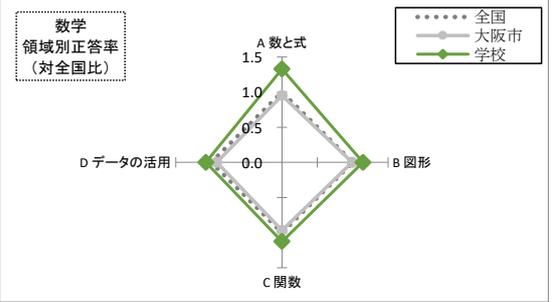
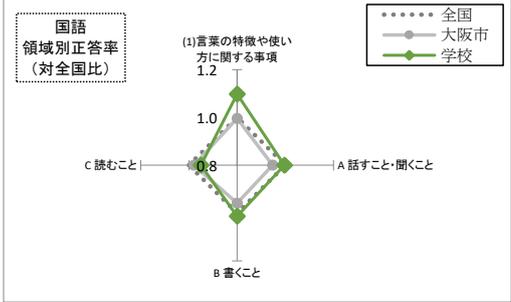
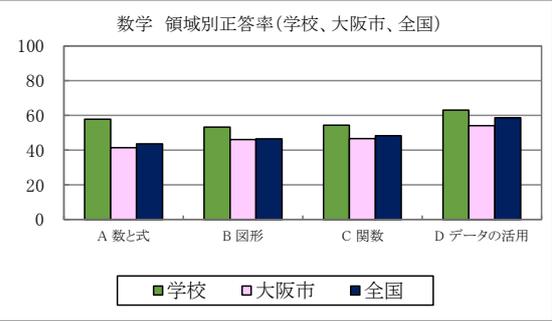
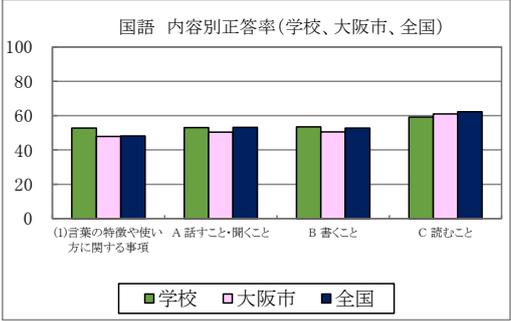


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	52.8	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	53.0	50.4	53.2
B 書くこと	5	53.5	50.6	52.8
C 読むこと	3	59.2	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	57.8	41.4	43.5
B 図形	4	53.2	46.1	46.5
C 関数	3	54.3	46.6	48.2
D データの活用	3	63.0	54.0	58.6

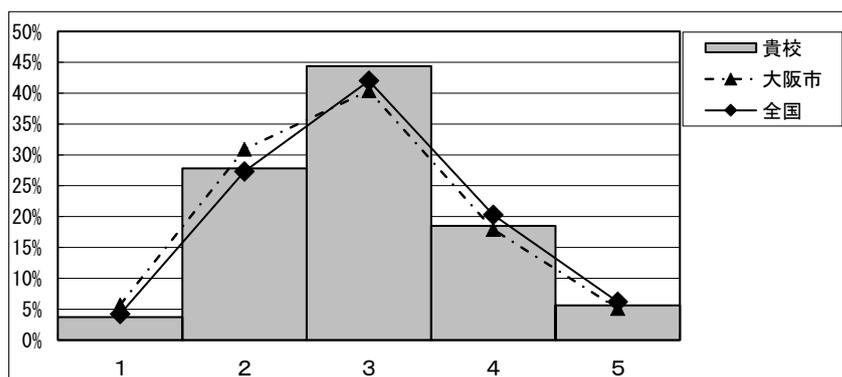
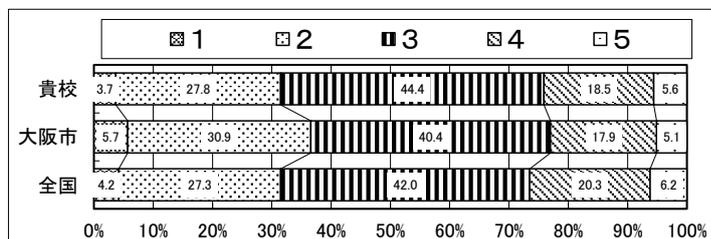


令和7年度 都島中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	504
大阪市	489
全国	503



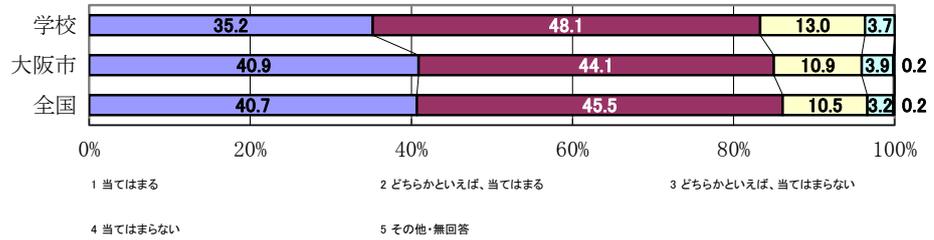
令和7年度 都島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

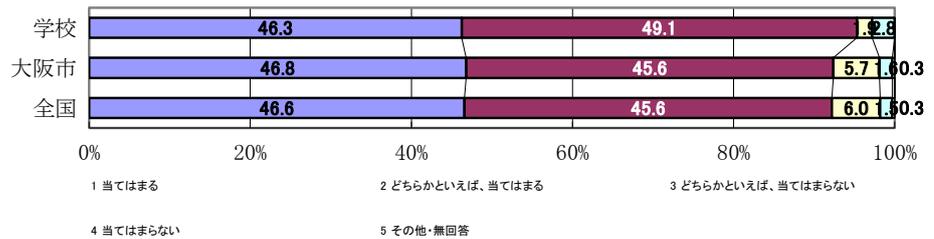
□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

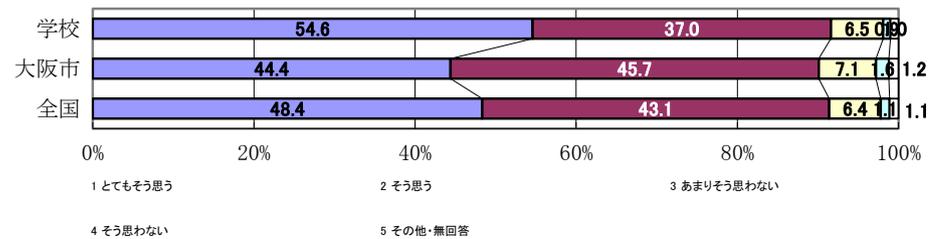
5
自分には、よいところがあると思いますか



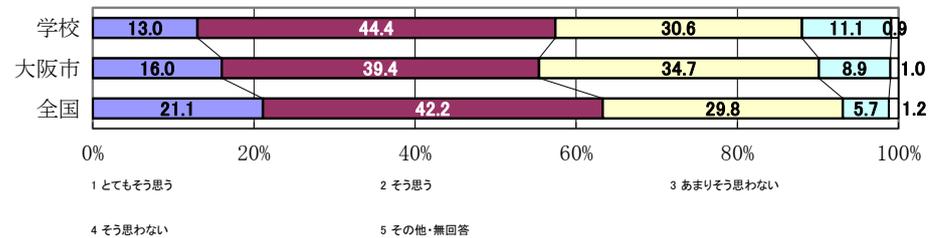
6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



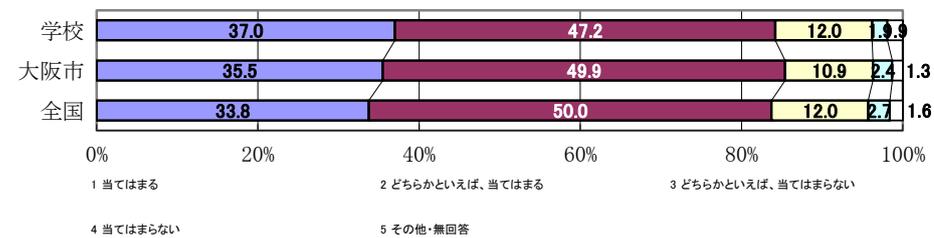
72
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか



73
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか



38
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



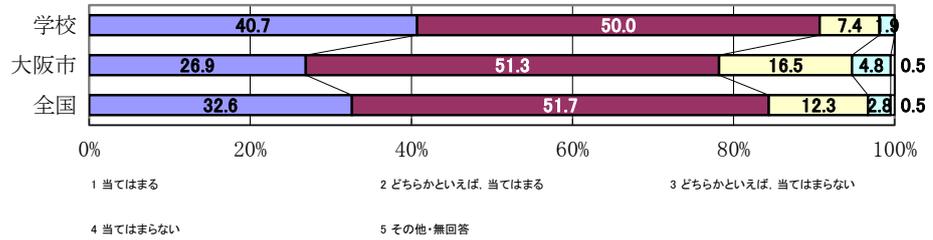
令和7年度 都島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

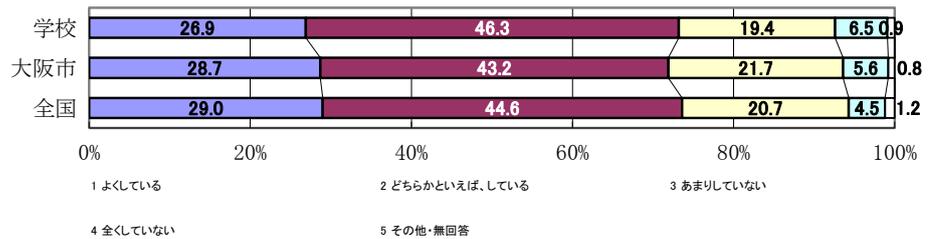
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

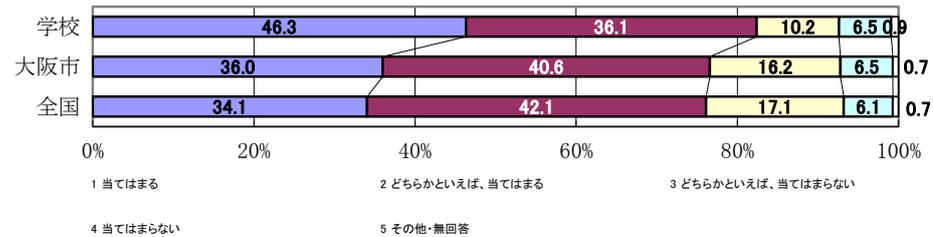
41
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



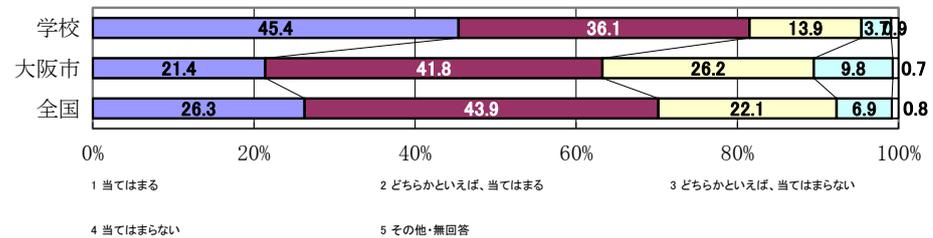
51
国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか



57
数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか

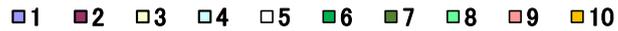


69
理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか



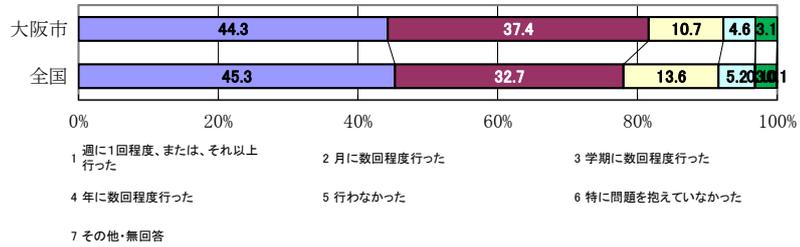
令和7年度 都島中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より



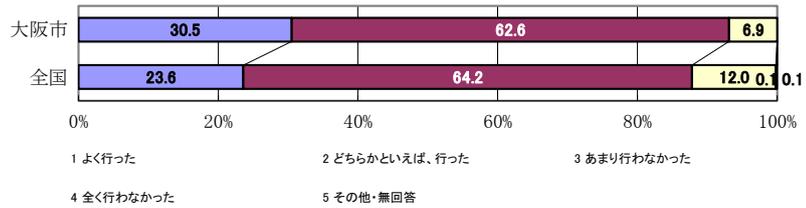
質問番号
質問事項
12
前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択



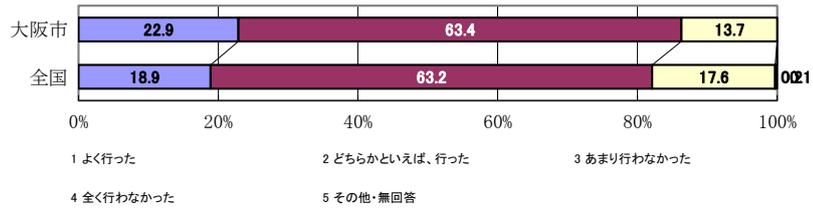
30
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



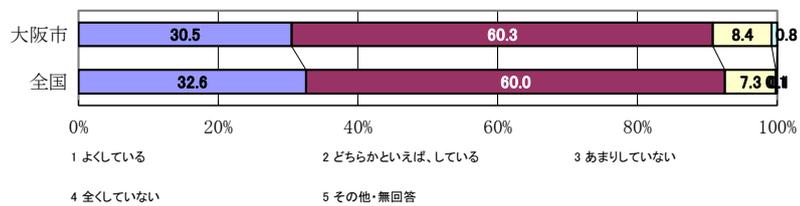
35
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか

学校 「よく行った」を選択



38
調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



55
前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

